

2025年12月10日、「省エネ診断結果報告会」を実施しました



「省エネ診断」の結果がまとまりましたので、診断結果報告会を開催しました。

報告書には23項目の省エネ施策案がまとめられており、リコージャパン(株)から詳細な説明がありました。

全ての省エネ施策を実行すると、初期投資も相応に必要ですが、現状明確になっている項目だけで年間数百万円のエネルギーコスト低減になることが分かりました。

ここでは23項目の省エネ施策案のうち、汎用性があり県内製造業者の皆さんに特に参考になりそうなものを下表にピックアップしました。



省エネ診断をもとにした改善施策提案	
<p>① 避難誘導灯のLED化</p> <p>室内照明だけでなく、蛍光灯タイプの誘導灯をLED化することでも省電力化が図れます。1台当たり9割程度の電力使用量削減が期待できます。</p>	
<p>② 工場内装置に使用されているVベルトを省エネベルトに更新</p> <p>工場内設備のVベルト(モーター付近などで使用されています)を省エネベルトに更新することで、設備運転時の電力使用量を低減することができます。</p> <p>省エネベルトは、特殊なゴム材料やノッチ(切り欠き)形状が採用されており、損失トルクを軽減し、伝導効率を向上させます。</p>	
<p>③ 蒸気配管の保温</p> <p>蒸気配管やバルブ類に保温を施せば、放熱が防止でき、燃料効率向上につなげることができます。</p> <p>省エネ法でも判断基準として定められている、JIS-A9501の規格に準拠して設計・施工(保温材の種類や厚みも決定)するなど、適正運用を心掛けましょう。</p>	
<p>④ 地下水の空調活用</p> <p>条件にもよりますが、地下水を冷水として有効利用し、冷房に活用することが可能です。</p>	

報告を受けたスマート業務改革推進室 畝原室長からは以下の様な発言がありました。

「CO2削減量の見える化につながる報告書を頂けてありがたい。社員のコスト意識を啓発するにあたって非常に相応しい。」

「サーモセンサーを購入した。当社内でも調査し、熱の漏れ(浪費)を見える化したい。」

「電力使用量はライン毎、または設備毎に分けて計測しないと、それぞれの取り組み効果が正確に測れないと感じる。可能であれば、個別の効果計測に取り組んでみたい。」

「環境ISOの活動に入れ込み、グループウェアでチェックリストを作るなどして組織的に取り組みたい。」

以上、非常に積極的な姿勢が伺える発言がありました。

今回は、この診断結果をもとに今後の取組計画の策定を支援する予定です。